

令和8年度第2回一関市商工業振興計画策定委員会 会議録

- 1 会議名 令和8年度第2回一関市商工業振興計画策定委員会
- 2 開催日時 令和8年7月14日（火）午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所議会棟 議員全員協議会室
- 4 出席者
 - (1) 委員 小林淳哉委員（委員長）、森本竹広委員（副委員長）、村上耕一委員、小野寺宏真委員、小川晃弘委員、菅原良一郎委員、菅原寿基委員、堀内大委員、佐藤昭規委員、森貴将氏（代理出席）、三浦栄久氏（代理出席）
※欠席者 石田真明委員、小山雅也委員
 - (2) 事務局 小野寺正寿商工観光部長、須藤美由紀商工観光部次長兼産業企画課長、千葉文信商工振興課長、松岡敏徳産業企画課商工企画係長、熊谷力弥産業企画課主任主事、藤澤誠矢産業企画課主事

5 議 題

(1) 協議

- ア 一関市の商工業を取り巻く現状と課題について
- イ 将来像、施策体系、取組内容について
- ウ 推進体制、指標について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 森本竹広副委員長挨拶

委員の皆様には本日から計画策定の実際の作業に取り組んでいただくわけだが、現在の社会情勢は、少子高齢化と人口減少が加速する中、人手不足や物価高騰など、地域経済を取り巻く環境は厳しさを増しております。こうした状況の中、事業者、関係団体、行政が課題を共有し、それぞれの立場から知恵を出し合い地域経済の活力の維持向上に取り組んでいくことがますます重要になっていると感じています。第1回の会議の際、市長の挨拶の中で、この計画は、より実効性の高い計画として取りまとめられることが望ましいとのお話がありました。皆様から幅広い視点で、積極的な御意見、御提言をいただきたいと考えております。

9 審議内容

(1) 一関市の商工業を取り巻く現状と課題について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 現状について、比較できる資料を示すのであれば、長いスパンでの比較や岩

手県内の他市町村との比較を示したほうがよいと思う。例えば、以前はどうだったのかという数字があれば、もっと実感しやすいと思う。新規高卒者の管内就職状況についても、令和4年以降の数字で悪くなっていることは分かるが、もっと劇的に悪くなっているはずで、以前の数字と比較したほうがよいと思う。パーセンテージだけではあまり大きく見えないので、もっと長いスパンでの変化が分かるようにして欲しいと思う。

今の問題はここ数年で起きたものではなく、長いスパンで起きている問題だと思う。もう少し長い時間軸の資料が欲しいと思う。

事務局 3ページの(6)岩手県内の他市町村との比較については、全てを時系列で示すのは難しいと思うが、主要な事業所数や従業者数などについては見直しを行う。また、もう少し長いスパンでの見せ方や、先ほど委員がおっしゃったような実数の変化、例えば新規高卒者の管内就職状況について200人いたのが100人になった、などのほうがインパクトがあると思うので、実数でも分かるように表を考える。次に、2ページについてだが、今回策定する計画から商業部門を含めるためこの表にしている。このグラフだけでなく、グラフの見方や過去との比較についての説明を記載するなど見直しを行う。

委員 企業の感覚で言うと、就職の資料などでは、北上市や金ケ崎町といった近隣自治体との比較を示すのが一般的だと思う。一関市はどうかということが見えた方がよいのではないか。完成版に全て入れるかどうかは別として、現状を認識する意味でもそのような比較資料が欲しいと思う。

事務局 今までそういう比較はしていなかったが、現実を認識するという面も必要だと思う。他でまとめた資料に、近隣自治体との製造品出荷額の比較グラフを作ってみたところ、一関市はあまり増えていない状況である一方、金ケ崎町や北上市では大きく伸びている状況であった。必要であれば計画書への掲載を考える。

また、最近の傾向として、北上市や金ケ崎町が多かった中で令和7年辺りから北上市が金ケ崎町を逆転している状況があり、半導体関係の動きもあるので、そうした点を見る意味でも入れてよいのではないかと考えている。

委員 施策で劇的なことをしたいのであれば、劇的に悪くなっていることを示さないといけないと思う。就職状況にしても、近くに大きな企業がある中で選ばれないといけない。そのことを認識しながら進めるためにも、もっと現実的な見せ方をした方がよいのではないかと思う。課題を認識するためにも、もう少し攻撃的に出してもよいのではないか。

委員 事務局の方で見せ方については、もう少し過去の状況も踏まえた上で、解説を加えるなど工夫をしていただきたいと思います。

委員 人口減少や少子高齢化の進行に伴う生産年齢人口の減少についても、減っているということは理解できるが、それだけでは十分に見えない。地域として何が悪いのかを、独自性も含めて記載した方が見えてくるのではないかと思います。人口が減少している、高齢化が進んでいる、ということだけでなく、この地域の状況をもう少し明確にした方がよいのではないかと。

事務局 人口減少については一関市総合計画に掲載し説明しているので、この計画ではあえて触れていないところである。ただ、御意見があったので、見せ方の方法を考える。全国的にも地方の人口減少が大きな話題だが、一関市はどうかということが重要と捉えている。その場合に、減っているという点と、自然減と社会減の近年の状況を併せて示したいと思う。少し前までは社会減がかなり落ちてきているという状況もあったので、実際の数字を出すことと、今どのような状況にあるかを併せて示したいと考えている。

委員 社会減は収まっているのか。

事務局 令和6年は、社会減の減少幅がかなり小さくなっていた状況にあった。

委員 商工業を取り巻く現状と課題を非常によくまとめていただいていると思う。一関市から外に働きに出る方もいれば、一関市に働きに来る方もいて、その人数や比率が、他市町村と比べてどうなのかというところは、非常に参考になる資料だと思う。

また、人口減少は日本全体、特に岩手県や東北で強いトレンドになっている。

その中で一関市が今後どう商工業を振興していくかという戦略を立てるに当たっても、一関市にどういった形でとどまってもらうか、仮に他地域で働くにしても一関市にどのように納税してもらうかといった考え方もあると思う。一方で、一関市外に働きに行く方が、なぜ地元で働かないのか、給与水準が低いのか、働く場所がそもそもないのかといった点を分析していく必要があると思う。要因を分けて指標として示していただけると、今後の計画づくりの手がかりになると思う。また、北上市は人口自体一関市より少ないものの、従業者数は1.5倍くらいある。そうした比率から、一関市の強みや弱みを分析し、どこを伸ばすのかを切り分けて示していただけると、非常にありがたいと思う。

委員 今の人口減少や社会減についてだが、高校生に対して、匿名でよいので、一関市に残る人、残らない人、なぜ市外に出ていくのか、どうすれば市内に残ってもらえるのか、といったものを、学校の協力を得て調査するのも重要なデー

タになると思う。学校に協力してもらうことは可能なのか伺いたい。

事務局 毎年度、新規高卒者に向けたアンケートを実施している。そのデータを用いながら、今回の計画にも反映できるようにしていきたいと思っている。

委員 以前、一関青年会議所で高校生全体にアンケートを実施したことがあった。就職する人、進学する人を含めた高校生全員が対象であった。

なぜこの地域を離れるのかという理由を聞いたとき、私は「働きたい仕事がない」が1位だと思っていたが、実際には「一人暮らしがしたいから」が断然1位だった。そうしたデータも参考にしていただければと思う。

委員 売上拡大のために重視している取組についてだが、既存顧客との取引拡大と新規顧客開拓という選択肢がある。企業支援の場合は、新規顧客開拓が大事だと考えがちだが、実際には既存顧客との取引拡大を優先すべきという意見もよくある。地域に根差している企業にとっては、むしろ既存顧客との関係を深めることの方が重要ではないかと思う。

委員 この委員会の位置付けが少し分かっていないところがある。以前から一関市商工業振興計画の委員会が設けられていて、長く続いていると思うが、今回のような商工業の計画は、現場の事業者にどう反映され、どのような成果があったのか知りたい。

事務局 これまでは一関市工業振興計画として、一関市が平成17年度に合併した後、最初の計画を策定しており、5年に1回ずつ改定している。これまでの計画は70ページほどの冊子で、概要版を企業訪問などの際に紹介していたが、全体の企業様に周知されているかという点、そこまでは十分ではなかったかもしれない。また、計画の進行管理については、一関市工業振興戦略推進会議を別に設置し、毎年2回ほど点検・評価を行っている。

(2) 将来像、施策体系、取組内容について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 資料4の令和13年度の目標値のところだが、例えば商業の振興で市内総生産が437.7億円とある。資料を見ればどのぐらいのアップを目指しているのかは分かるが、縮小版になったときに、何%ぐらいアップを目指しているのか、あるいは就労者1人当たりいくらのアップを目指しているのかといった表記の方が、目標の規模感が分かりよいのではないかと思う。

事務局 次に説明する資料5で成果指標を示しているが、現状値と一関市総合計画に定める令和12年度までの目標値がある。目標設定の考え方は記載のとおりで、一関市商工業振興計画については、一関市総合計画より1年先の令和13年度の

目標値を設定しているので、同じ積算方法を採用している。

委員 市の施策による起業者数とあるが、「市の施策による」とはどういう意味か。

事務局 市の施策による起業者数は、経済産業省の認定を受けている特定創業支援事業等計画に基づいて、市が実施している起業支援事業の修了生が起業した人数を把握したものである。

委員 起業者をどう把握するかという指標の設定だと思うが、もう少しわかりやすく市が支援した起業者数などと表現する方がよいと思う。

事務局 一関市総合計画の指標を転記しているところだが、一関市商工業振興計画の中での書き方については工夫をする。

委員 市内総生産など、金額ベースの資料については、何もしなくても物価によって膨らむのではないかと思う。施策による効果の分と、経済状況分は分けた方がよいのかもしれない。あるいは、金額は参考資料として示しつつ、人口など人に関わる指標を設定することも検討していただければと思う。

事務局 今年度は、一関市商工業振興計画と並行して一関市観光振興計画も策定しているが、物価上昇で金額面は当然上がるだろうという話は一関市観光振興計画策定委員会でもいただいた。表の目標値については、一関市総合計画で示している政策に合った体系になっているかを確認するために、目標値を示しているが、具体的な取組の内容については、その取組に応じた指標が必要であれば、改めて詳細な指標の設定も検討していきたいと考えている。

委員 働き続けられる環境づくりの中で、女性の活躍やスキルアップ、リスクリングとある。現段階は大枠を決めるところと踏まえた上で紹介する。リスクリングを組織的に取り組んでいる学校や団体がある。出産などでキャリアが止まってしまった女性に対して新しいスキルを身に付けてつなげていく支援である。AI活用など、今ならできることもあり、以前のように一から全てやり直すのではなく、今あるスキルを活用しながら新しいスキルを取り入れていく形がよいと思う。その際、誰がコーディネートするかが大事だと思う。市や関係団体でそうしたリスクリングの仕組みを作ることもできるのではないかと思った。

委員 リスクリングをした結果、AIに仕事を奪われるのではないかという不安もある。リスクリングを進めるときは、人にとって良い形になるようにしないとイケない。また、女性が出産後に戻ってくるというのは、企業にとってもエンゲージメントを高める要素になると思う。そうした人材を逃がさない企業が増えた方が、この地域ではよいと思う。

(3) 推進体制、指標について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 この委員会の位置付けの確認だが、一関市商工業振興戦略推進会議というのは、計画策定後に行われるものなのか。我々はこの計画がこの委員会に諮られることによってお墨付きだと思っていた。そういう位置付けだと思うが、どこまで意見を言ってよいのか。資料を事前にいただいて各委員が担当部分についてコメントをしていくという流れもあるが、そのようにもう少し具体的な内容について議論するのはどうか。

事務局 役割は委員がおっしゃるとおりである。資料4については、ワーキンググループでアイデアを出していただいたものを、事務局で整理した形で今回提案している。具体的な取組の内容については、今ここに記載されているものが完成版というわけではなく、具体的内容についてはこれからまたワーキンググループの中で詰めていくことになる。事前送付の内容について、皆さんに知見を述べていただくという形でよいと思っている。この委員会の中で御意見をいただければありがたいと思っている。

委員 今回のメンバーに金融機関の方が入っていないのが気になる。

事務局 一関市商工業振興戦略推進会議のメンバーには入っている。

委員 資料5の2枚目に商業の振興という政策があるが、現状値が412.8億円、目標値が437.7億円とある。数字の根拠は何か。

事務局 これまでの毎年の伸び率の推移を見て、その値を採用している。先ほど御意見があったように、伸び率が物価スライドの分と考えると、この伸び率はもう少し検証しなければならないと思う。

委員 売上高のようなものを目指しているわけだが、売上が上がっても中身が伴わなければ意味がないと思う。実のある分を上げていくことが本来の目標ではないかと思う。絵に描いた餅にならないよう目標値の考え方そのものを見直す必要があると思う。売上金額だけではなく、もっと違うところに目を付けることも必要なのではないかと思っていた。

事務局 次回、又はその前に行うワーキンググループ会議で、今回示したものを踏まえて、もう少し中分類などで別な指標を用いた方がよいのではないかという御意見があれば、改めてお聞かせいただければと思う。

(4) その他

委員 内容としては、どこの市町村でも同じことを考えているように思う。その結果として、一関市ならではの尖ったものが何か欲しいと思う。一つであれば、それに影響されて周りも動いてくる可能性がある。

委員 選ばれるためのものを明確に打ち出さなければならないのではないかな。他の地域からこの地域に働きに来てもらうことや、誘致企業に来てもらうことなど、選ばれなければいけないと思う。選ばれることを指標にすると、政策として尖ったものが出てくるのではないかなと思う。

事務局 先ほどのリスキリングの話も参考になると思うが、学んだことをどう生かせるか、これから考えていかなければならないと思っている。

委員 最近はA Iを活用して効率化しようという動きが出てきている一方で、それを使いこなせる人材をどう育てるか悩んでいる会社が多いと思う。こういったやり方がいいのかは試行錯誤中である。

事務局 高校生の就職についても話があったが、一関市の特色として、高校生の就職で最も多いのが製造業である。地元出身者の8割ぐらいは製造業に就職しているという状況である。

委員 一関工業高等専門学校も定員は確保しているものの、少子化の中で全国に51ある高等専門学校の一つとして一定数は来ても、一関工業高等専門学校だけが突出して増えることはないと思う。そうすると、周辺から人を呼ぶ必要がある。東京都などに高等専門学校がある中で、一関市が選ばれなければならない。そのためには、強烈な個性を発信しなければならないという話もあると思う。一関市では、人が減り、産業や人材が減ってきている。一方で、一大農業地帯で農業を維持しなければならないという課題もある。また、周辺の漁業や半導体などの位置付けもあるので、課題の多い地域だと思う。だからこそ、課題解決の先進地になるべきだと思っている。いろいろと検討していく中で、企業の方々と一緒に進める人材育成も大事だと思うが、どの自治体でも当然やっていることであり、ただ、課題がたくさんある地域だからこそ、企業が実証試験してくれる場所になればよいと思う。クマ対策でソフトバンクが実証試験に取り組んだように、技術を活用する場所を求めている企業がある。ここで実証できることが分かれば、防犯にもつながり、他の分野でも生かせると思う。特にIT企業のようなところは、まず一時的でも来てもらい、自社の仕事をしてもらえれば、その後定着してくれるかもしれない。人と違う視点や発想を持つ人たちに多く来てもらえればよいのではないかなと思う。

委員 今の意見は非常に意味深いと思った。

先ほどもあったが、資料の説明に使うのももったいないところがあると思う。ワーキンググループ会議の会議録も提供いただいてありがたかったと思っている。今回の会議を含めて回数は多くないが、次回まで宿題のような形で、先ほ

どのように一つ一つ考えてきてブレインストーミングのように出してみると、この会議もよりユニークなものになるのではないかと思う。おそらくワーキンググループと事務局でやり取りをしていくと、黙っていても計画はできていくのだと思う。この委員会としては、そこに一つ大きな目玉や軸、新たな視点を付け加えるところで存在感を出せればよいのではないか。一関市ならではのルートがあるので、一関市ありきで考えたいところだが、他の市町村から見れば一関市はあくまで一つの自治体にすぎない。選ばれるためには、先ほどの話にあったような、新たな視点、あるいは先進事例として他市町村に展開されるような新しい取組が必要ではないかと思う。そうしたことを一度検討いただければと思う。

事務局　ありがとうございます。今いただいた御意見も踏まえ、次回までにこの会議とワーキンググループ会議それぞれの役割を明確にし、次回の会議で何を検討していただくのかを、もう少し具体的に示したいと思う。

10 担当課　商工観光部産業企画課